

富士紀行 (99) 富士山讃歌。喜多郎氏と共に！ (H13/10/1 記)

10月2日(火)午後6時から3日(水)午前6時にかけて、『喜多郎と共に喜多郎・2001富士山讃歌「前略、富士山殿 私の心を預かって下さい。』』事業が行われる。小生も、特に何もなければ、家内と共に参加させて頂く予定だ。

その概要を事業計画書から紹介しよう。

● 場所：富士山登山道御殿場口 太郎坊 第3駐車場

● 内容

喜多郎と人々との太鼓マラソン

① 大太鼓「富士山」での競演

② 参加者持参の楽器との競演

10/02/1800 サンセット・カンツォーネ (オープニング)

入魂式 (主催者、支援者、友情出演者)

・・・喜多郎の鎮魂式

10/03/0000 ムーンライト・シンフォニー

・・・参加者の鎮魂歌

10/03/0600 サンライズ・ラブソディー

・・・喜多郎「富士山讃歌」

・・・宣言碑建立

● 後援・支援等

御殿場市等の他、富士学校も広報班が窓口となって、炊事支援等を行っている。

● 趣意書 (掲載同意有)

「富士山」は、なんと安らぎを感じる山だろう。

気高さ、崇高さ漂わせる「富士山」は山というより、人間らしさを感じさせられます。富士山と共に歩んでいる私たちは、その神々しい姿に思わず手を合わさずにはいられません。

古来から万葉の歌人に謳われ、数多くの画人に描かれ続け、現代において富士山に由来する名称の多さは他を寄せ付けられないものがあり、日本人の心の原点と言っても過言ではありません。

四季を通じて富士山の姿は変わるけれど富士山の持つ荘厳さは時空を越え不変であり、更に人々の富士山への憧れも不滅であります。

一方、近年、富士山は勿論の事、地球的規模での環境問題が提起されており、これは20世紀文明の残した課題であり、懸念される地震や噴火などの自然災害もその警鐘ではないでしょうか。

今回の事業では、民主的に選ばれた、環境問題に活発に取り組む国会議員で組織する「GLOBE Japan」のメンバーと一緒に、富士山と自然に向かって、深く鎮魂の祈りを捧げつつ、9月11日にアメリカ合衆国で起きた同時多発テロ事件の犠牲者の皆様に哀悼の誠を捧げたいと思います。

過去4回の事業で得た大きな感動と再びを再び享受し、一人でも多くの心の棲家を富士山に定めるために、喜多郎と共に喜多郎・2001富士山讃歌「前略・富士山殿 私の心を預かって下さい。』事業を実施いたします。

悠久と流れる時の中で静かなる大地に抱かれ人々が天空の壮大なドラマとともに織り成す現代の神話は太鼓の鼓動が序章であり、でクライマックスはご来光で金色に輝く富士

山の出現と人々の幸せに満ちた笑顔で迎える光景は大いなる体験です。

新世紀の幕開けとともにグラミー賞を受賞し、新たな挑戦が始まりました、富士山との、出会いで得た貴重な感動の蓄積が今日の原点であります。

『富士山に深い感謝と世界の平和を強く願って!』

主催者 喜多郎(高橋正則)

【追記】

黎明の富士に太鼓の響き

皎々たる仲秋の名月が富士山の左辺に掛かり、富士山には一片の雲もない、素晴らしい夜明けを予感しつつ、太郎坊に向かう。

10月3日朝5時35分、太郎坊第3駐車場には昨夜来の富岳太鼓のメンバーや支援者、富士学校支援隊員等の熱気が凝縮され、太鼓の音が冷気によって裾野一帯に響いている。

次第に富士山頂が紅を帯びはじめ、箱根・足柄山系の頂きに沿って浮かぶ雲の間にはピンク色の朝日のシルエット。喜多郎が叩く太鼓の終わりと同時に旭日が雲海を突き抜け、辺りは一面神々しい朝日に照らされた。二度目の御来光である。昨年同様、地球環境を守ろうとの宣言碑が幾多郎の手によって建立され、一連の富士山讃歌の行事を終了した。

喜多郎の最後の挨拶、涙ぐんでの米国同時テロに対する哀悼の辞は聴衆をして感動を覚えさせた。

遠く、釧路から参加した小生の学生時代の部屋長に久方ぶりにお会い出来たのは僥倖であった。

